

○参加報道機関（敬称略）

南信州新聞社、信濃毎日新聞社飯田支社、朝日新聞飯田支局、読売新聞飯田通信部、
㈱飯田ケーブルテレビ、日本農業新聞、飯田エフエム放送㈱

○会見内容（敬称略）

進行【秘書広報課長】

1 開会

2 市長あいさつ

10月第1回定例記者会見にお集まりいただき、ありがとうございます。

南信州飯田果実酒特区を活用した市内初のシードル醸造所から、初めてのシードル製品が販売開始されます。

当市には構造改革特別区域計画として南信州飯田果実酒特区という制度がありますが、これに基づいた事例はまだありませんでした。しかし、株式会社マツザワ様からこの制度を活用して製造したシードルを発売したいとお申し出いただき、今回記者会見での発表の運びに至りました。よろしくお願ひします。

3 発表事項

（1）南信州飯田果実酒特区を活用した市内初のシードル醸造所製品の販売開始

【産業経済部】

資料に基づき説明

説明者：株式会社マツザワ 店舗開発グループリーダー、農業課長

〈質疑応答〉

南信州新聞社

まずは摘果リングを用いたシードルの販売開始となりますが、摘果リングの含有有無によってどのような違いがありますか。

株式会社マツザワ

摘果リングを使うことで酸味や渋みが増し、味わいに深みが出ます。

南信州新聞社

摘果リングをシードルに使用した前例はありますか。

株式会社マツザワ

県内ではおそらく初めてです。青森県の「もりやま園」では数年前から摘果リングを100%使用したシードルを製造販売されています。

南信州新聞社

本年度の出荷量は決まっていますか。

株式会社マツザワ

免許の要件である、2,000 リットルを2種類合計の目標量としています。

南信州新聞社

今回初の醸造所ですが、2例目や3例目の特区を活用する計画はありますか。

飯田市

現時点ではありませんが、引き続き、相談があれば可能な限り協力させていただきます。

信濃毎日新聞

8月に仕込まれた摘果リンゴ入りのシードルのサイズはそれぞれ何本製造されましたか。

株式会社マツザワ

300本ずつ作っています。

〈その他質疑応答〉

信濃毎日新聞社

市長は今任期最後の記者会見になりますが、この4年間を振り返ってどのように感じていますか。

飯田市長

今任期はこれまで地図や図面でお話ししてきたリニア関連や三遠南信自動車道など、いろいろ積み重ねて取り組んできたものが目に見える形で成果を出すことができた4年間だったと思います。

その反面、今年に入って新型コロナウイルス感染症が世界的にまん延し、当地域もその影響を受け、さまざまな課題が噴出してきました。コロナショックによる地域経済の低迷が一番の課題ですが、それに対して新型コロナウイルス感染症対策、経済再生のための緊急経済対策を次々と打つことができました。いろいろな意味でこの地域にとって変化のある4年間でしたし、それに対してしっかりと対応していかなければならない4年間であったと思います。

信濃毎日新聞社

この4年間でやり残した課題はありますか。

飯田市長

新型コロナウイルス感染症対策、地域経済対策、教育政策、旧ピアゴの改修など、やり残したというよりも、現在進行形で進んでいるという心境です。

4 閉会

この内容については、言葉遣いや言い回しなどを整理したうえで作成しています。

(作成：秘書広報課広報広聴係)